

中国語の環

第117号

『中国語の環』編集室編 2021年4月

- 目次
- 9 **巻頭のことば** コロナ禍の難局を乗り切ろう
 - 10 **中国語でどういう?** かわいがられるか、それともかわいがってもらうか
 - 11 **例文で説き(=解き)ほぐす中国語文法**
Lesson 1 “武松用手打死了一只老虎。”
 - 12 **中国食文化** 迎客饺子送客面：餃子で客を迎え、麵で客を見送る
 - 13 **紛らわしい文法表現** “V不得”と“V不了”(1)
 - 15 **看图学谚语** 絵で見ることわざ(7)
 - 17 **中国語と文化** 漢文学習と中国語学習
 - 18 **語彙学習の話** 目的別の語彙学習
 - 19 **読者の広場** 1級を目指して

ひとことエッセイ

言葉とは面白いもので、単に文法が正しくても、そうは言わないということがよくあるものです。

例えば、日本語では「郵便局は何時まで開いていますか」と言うところを中国語では“邮局开到几点?”とも言いますが、普通は“邮局几点关门?”と言います。ただ、「昨日は何時まで起きていましたか」は中国語では“昨天几点睡觉?”つまり「昨日は何時に寝ましたか」としか言えないのです。

よく似たものとして、日本語では「父は留守です」と「肯定形」で言うところを、中国語では“爸爸不在家。”のように否定で言うのが普通です。「今日は気分が悪い」も同じように“今天我不舒服。”となりますね。

こうした例は他にも沢山ありますから、皆さんも色々考えてみてください。つまり、言葉の習得とは単に文法や発音・語彙が完璧でも実はまだ半分ということなのです。

(理事長 内田 慶市)

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

コロナ禍の難局を乗り切ろう

理事長 内田 慶市

今、世界は「新型コロナウイルス」によって人類がかつて経験したことのないようなパンデミックの状態に置かれています。外国ではようやくワクチンの接種も始まってはいますが、まだまだ終息の兆しはみえてきていません。

そんな中、中検も昨年の3月には中止を余儀なくされ、6月、11月も全ての会場での実施はできませんでした。今年に入っても、2度目の非常事態宣言が発出されて、3月の試験にも少なからず影響がありました。

ただ、コロナ禍は全てがマイナス面ばかりではありません。コロナ禍によって見直されたり、ようやく促進されたこともあります。働き方、学び方、教え方の大きな変革がそれです。

これまで日本の社会では「テレワーク」などは海の向こうの話と思われてきました。しかし、今や多くの職場で「テレワーク」が推奨され、在宅勤務が広がっています。私たち人間はマイナスをプラスに変えることができるのです。

学校教育においてもこの1年で急速にICTの活用が進められています。小中高でもオンライン授業が行われるようになりましたが、特に、大学においては昨年はほとんどがオンラインで、最近でも対面とオンラインの併用というのが一般的になっています。私なども、かつてはZoomなどのWeb会議システムは名前こそ知っていましたが使ったこともありませんでしたが、今では授業だけでなく、様々な会議や研究会、シンポジウムもZoomで行うことが当たり前になっています。講義風景を自分で撮影し、それをYouTubeなどにアップしてオンデマンド教材として利用することも広く行われるようになりました。

この流れはコロナが収まった後でも恐らくもう後戻りしないと思われます。もちろん、Wi-Fiなどのネット通信環境の整備も今後同時に行われる必要はあります。

中国語教育でもオンラインを利用した学習教材がどんどん開発されてきています。実は、語学教育、語学学習はオンラインに適しているように私は思っています。教室での一斉授業で発音練習や単語ドリルを行うより、パソコンやスマホで間近で画面を見ながら一人で学習の方が実は集中でき、効率的に学べるというメリットもあるように思います。

中検でもすでにホームページには「オンライン学習」のコーナーを設けて「中国語のすすめ」や「中国語発音学習教材」「中国語学概説」、あるいは「スマホとパソコンで中国語入力をするには」といったコンテンツをアップしていますが、今後、こうしたオンライン中国語学習教材の開発にも力を入れ、中国語学習の「プラットフォーム」として活用していただきたいと思います。加えて、将来的にはオンライン受験なども視野に入れていきたいと思っています。

かわいがられるか、それともかわいがってもらうか

張 勤（中京大学）

タイトルの日本語のもとになっているのは直訳が難しい“讨人…”を使っただけの表現だ。

(1)她很讨人喜欢。

辞書や教科書では(1)をよく「彼女は(人に)かわいがられる、好かれる」と訳される。日本語としてはたいへんじっくりして自然なものだが、本来の中国語のニュアンスを伝えていないようだ。“讨”は多くの意味を持つが、ここでは「ある感情・状態を招く」という意味から来る用法で、“讨人…”は意味と構造からして「人から／の～を引き出す(招く)」といったところであろう。

(2)他一直相信讨人喜欢和坚持是事业成功的关键。(彼はずっと人に好感を持ってもらうことと頑張り続けることが事業成功のキーポイントだと信じている。)

(3)一个人要珍视自己的纯真，不要为讨人喜欢心随波趋势，而轻易地改变自己。(人は自分の真心を大事にすべきで、人の機嫌をとるために成り行きに流され、気軽に自分を変えるべきではない。)

(4)他喜欢阿谀奉承，哪句话讨人喜欢说哪句。(彼はよく阿諛追従をするもので、人の機嫌をとることばかり口にする。)

以上の例で見られるように“讨人(喜欢)”は主語(“他”または“她”)に焦点を当て、それらの「人に好感を持たせようとする」「人に好かれようとする」積極的な意識をニュアンスに持つ表現である。次の例はどうであろう。

(5)这只猫很讨人喜欢，跟王蒙很有感情，他上哪儿去，猫都跟着他。(この猫はなかなか可愛らしくて、王蒙にすごくなついており、どこへも着いてくる。)

(6)轿车行驶时有一种摩托的响声，但总的来讲，挺讨人喜欢。(走る時バイクのような音がするが、この乗用車は全体的になかなか愛嬌のある車だ。)

(5)(6)は動物や車が主語になっており、積極的な意識がないが、表現としてはやはり焦点を猫や車に当て、「猫が王蒙になつく性質」や「クルマの全体の雰囲気」が“讨人喜欢”の結果をもたらしているというニュアンスを持つ。

(7)好几次想责备他这种行为是不对的，但又觉得是人家的事，我何必讨人厌呢？(何度もそんな行為は間違っていると彼を責めたいと思ったが、自分のことでもないし、恨みを買うことがあるのかと思ったりする。)

積極的に意識し、行動して“讨人厌”をもたらすことは日常の論理に反するが、表現としてはやはり主語に焦点を当て、“讨人厌”は主語の性質または行為の結果によるものだという捉え方である。このような捉え方は日本語で一般的に受け身の意味で言う「可愛がられる」「嫌がられる」とは異なる。類似表現の“讨没趣儿”“讨人嫌”“讨嫌”“讨厌”“讨好”などからも同じ表現意図が窺える。

Lesson 1 “武松用手打死了一只老虎。”

古川 裕（大阪大学）

この誌上講座では、ちょっと気になる例文を取り上げて、中国語の仕組みを説き（＝解き）ほぐしてゆこうと思います。

まず、最初に取りあげる例文は“武松用手打死了一只老虎。”です。単純きわまりない文に見えますが、実は、この例文の中に中国語らしいメカニズムが隠れているのです。

さて、皆さんはこの例文で主語をつとめている“武松”（Wǔ Sōng）って、どこの誰だかご存じでしょうか？明代の長編白話小説《水浒传》の登場人物で、人喰い虎を素手で退治したという好漢です。知る人ぞ知る武松（ぶ・しょう）の虎退治…これを裏返して言えば、知らない人は何も知らない物語というわけで、ある時、大学の教室でこの例文を訳してもらったことがあります。その学生が訳した日本語は「タケマツは虎を手でなぐって死んだ」！一瞬気絶しそうになったものの、気を取りなおして考えてみました。原文にある単語はすべて日本語に訳しているし、なるほどこの訳文にも一理あるなあとしばらく感心しつつ、このタケマツ訳の許せない点は、主語の“武松”が死んでしまうことです。これでは『水浒传』はストーリーが展開しないし、別の物語『金瓶梅』へと発展することもありますね。では、皆さんなら“武松用手打死了一只老虎。”という中国語をどう日本語に訳しますか？

文の構造を見えやすくするために、例文から余計な枝葉を取りはらい、根幹となる部分だけを残して“武松打死了老虎”にして話を続けます。そうすると、この中国語原文に対応しそうな日本語訳として下の①～③が考えられますね。

中国語例文：武松打死了老虎。

日本語訳文①：武松はトラをなぐって死んだ。

日本語訳文②：武松はトラをなぐり殺した。

日本語訳文③：武松はトラをなぐって死なせた。

訳文①は上に紹介した「タケマツ訳」ですが、この日本語は「武松がなぐった→武松が死んだ」という動作行為の連続を描いた文です。もし仮にそのような状況があったとして、それを中国語で言いたければ、たとえば“武松打老虎（而）死了”という文になります。

訳文②は原文の中国語を〔主語S“武松”＋動詞V“打死”＋目的語O“老虎”〕ととらえており、①よりもずっとマシですが、日本語「なぐり殺す」が対応する中国語は“打杀”のはず。であれば、訳文②にふさわしい中国語は“武松打杀了老虎”となり、もとの例文とは違ってきます。この“武松打杀了老虎”はかつて近代中国語で成立した表現ではあるものの、現代中国語では“武松打死了老虎”が正しい表現なのです。

そこで、結論を言うと、原文に対応する日本語として最もふさわしいのは訳文③なのですが、これは消去法で残った結論というわけではなく、これこそが中国語の動補構造VRらしいメカニズムなのです。

例文	武松	打	死了	老虎
文の成分	主語	述	語	目的語
意味役割	動作主	原因行為	結果状態	受動者
意味関係				

つまり、“打死（了）”において、動詞V“打”は主語（武松）が先に行なった動作行為を表しているのに対して、補語R“死（了）”はその結果として目的語（トラ）の身の上に生じた状態を描いています。動詞Vは文の左側（主語、動作主）と関係があり、結果補語Rは文の右側（目的語、動作の受け手）と関係があるわけで、比喩的に言えば、VRは表向き仲良く一体化しているように見えても、実はVとRの間には溝があって、二人の間には既にすきま風が吹いている…（続く）。

動詞Vと補語Rの真相が見えてきたところで誌面が尽きました。“武松打死了老虎”をめぐる文法講座は次回に続きます。お楽しみに。

中国食文化

迎客饺子送客面：餃子で客を迎え、麺で客を見送る

新年を迎える大晦日の夜、日本では「年越しそば」を食べる。中国ではその夜の食事を“年夜饭”niányèfànと呼ぶ。特定の料理が決まっているわけでないが、多くは“餃子”jiǎoziを食べる。その音が、子（ね）の刻（“子”zǐ）に交わる（“交”jiāo）に通じるからである。仮に「年越し餃子」と呼ぶと、日中ではそばと餃子が対になる。しかし中国の年越し料理は食べ方（「家族みんな」で食べる）が重視される。“年夜饭”を“团圆饭”tuányuánfànというのもそのためである。離れ離れに暮らす家族が旧暦の正月に“一家团聚”（一家団欒）して食するのである。家族が集まり食べるだけでなく、“擀皮儿”gǎnpír（皮を作り）、“包bāo餃子”（餃子を作り）、“煮zhǔ餃子”（餃子を茹でる）といった作業も家族総出で行われることも多い。“餃子”の“交”は家族のきずなを結ぶことにもなるのである。

なぜ“餃子”と言うのか。おそらく、最初はその形状（「とんがり」があること）から“角”と書かれ、後に“交”と近い音になり、さらに部首が加えられて今日の語になったものと思われる。“角”のままであつたら「年越し餃子」や「一家団欒餃子」は生れなかったに違いない。親しい客を迎えるときに、家族の枠を拡大した「団欒餃子」が用いられるのも不思議はない。「歓迎餃子」と言える。

一方“面”（「麵」の簡体字）はうどんである。細く長いという形状から「いつまでも」と意味の形象に用いられ、客を見送るときに“面”が食べられるのである。

（大塚 秀明）

“V不得”と“V不了”(1)

魯 曉琨 (文京学院大学)

前回，“V不得”は可能補語表現として二つの意味を持っていることを明らかにしました。“V不得₍₁₎”はVを実現するための条件が備わっていないからVが実現できないことを表し，“V不得₍₂₎”は会話文で、話し手はVが実現すると必ず悪い結果がついてくると判断し、聞き手にVを実現しないよう忠告することを表します。今回取り上げるのは“V不得₍₁₎”です。以下“V不得”と称します。

研究によると，“V不得”はほとんど“V不了”に変換可能ですが、逆に“V不了”は意味範囲が広く，“V不得”に変換できる範囲が限られています。そのため“V不得”と“V不了”の共存範囲および共存範囲での役割分担が問題となっています。それを解明するため、今回は“V不得”の文法的な意味を解明しておきます。

“V不得”の意味を考えるために、次の用例を見てみましょう。

(1)我有病，熬不得夜，先走一步。

(私は病気で、夜更かしができませんので、お先に失礼します。)

(2)她怀孕了，做不得重活。

(彼女は妊娠中で、重労働はできない。)

(3)她父亲瘫痪十几年动不得。

(彼女のお父さんは十数年間寝たきりで、動けない。)

(4)公交车上人太多，挤得我动不得。

(バスの中は人が多すぎて、体が動かせないほど込み合っていた。)

例(1)から(4)までVが実現できない理由はみな動作主の生理的な障害にあります。

(1)は病気で“熬不得夜”；(2)は妊娠中で“做不得重活”；(3)は寝たきりで“动不得”；(4)は外力により体が一時的に固定されたことで，“动不得”。

例(1)～(4)のみを観察すれば、「動作主の生理的な障害により動作が実現できない場合，“V不得”が用いられる」という結論を出せますが、さらに、(5)(6)を比べると、動作が限定的であることが分かります。

(5) (○) 我腰疼，走不得路了。

(6) (×) 我腰疼，打不得网球了。

例(5)(6)では同じく「腰が痛い」という生理的な障害です。それにより“走不得路了”と言えますが，“打不得网球了”とは言えません。これはなぜでしょうか。「歩くこと」は人間の基本的な動作なので、「腰が痛いこと」により、人間の基本的な動作ができなくなって日常生活にも影響が出るわけで、これによって生理的な障害が生じたのだと認識されています。一方「テニスをする」というのは一種の運動能力なので、「腰が痛いこと」によりテニスというスポーツができなくても、生理的な障害が生じたとは認識されていないのです。

ここまでの“V不得”は動作主の生理的な障害により基本的な動作が実現できないことを表します。この意味の“V不得”は動作主が動物や植物である場合にも用いられます。

(7)这匹马得了口蹄疫，吃不得草。

(この馬は口蹄疫にかかっている、草を食べることができない。)

(8)这种植物受不得风。(この植物は風に弱い。)

また、“V不得”を用いるとき、動作が実現できない理由は生理的な障害のみならず、心理的な障害にもあります。例えば、

(9)有些学者由于急于出成果，坐不得冷板凳。

(一部の学者は成果を出すのに焦るあまり、じっと時間をかけて研究してられない。)

(10)她那颗心晶莹透亮，掺不得一粒沙子。

(彼女の心は明るく澄み切っていて、一点のくもりも許さない。)

(11)他一想作恶，就浮现出父亲的形象，下不得手。

(彼は悪い事をしようと思うと、すぐ父の顔が思い浮かび、手を下せない。)

(12)有些人经不起批评，受不得委屈。

(一部の人は批判に耐えられず、嫌な思いに我慢できない。)

例(9)~(12)では動作が実現できない理由はみな動作主の心理的な障害にあります。(9)は、学者が成果を上げる焦りという心理的な障害で、“坐不得冷板凳”；(10)は、彼女の心が明るく澄み切っていて、心をくもらされることに対する心理的な障害があるため、“掺不得一粒沙子”；(11)は、悪い事をしようとするとき、父親の顔を思い出すという心理的な障害で、“下不得手”；(12)は、嫌な思いに抵抗するという心理的障害によって、“受不得委屈”ということになります。

さらに深めると、“V不得”の“V”は、(9)~(11)では能動的動作ですが、(12)では受動的な動作です。能動的な動作であれば、動作主は心理的な障害によりその行為を行なうことができません。一方、受動的な動作であれば、動作主は心理的な障害によりその行為を受け入れることができません。

以上の分析により、“V不得”の文法的な意味を「“V不得”は基本的に動作主体の生理的な、または心理的な障害により“V”が実現できないことを表す」とまとめられます。「基本的に」というのは、用例が少ないですが、“V不得”には(13)のような派生された使い方もあるからです。

(13)他做了这种事，回不得家乡，见不得父母。

(彼はこのようなひどい事をしたので、家にも帰れず、親にも合わせる顔がない。)

例(13)ではひどい事をしたことにより、“回不得家乡，见不得父母”。この場合“V不得”は「ある特別な障害により“V”が実現できないことを表す」と解釈できます。

今回は“V不得”の独自の文法的意味を明らかにしました。独自の意味を持っている“V不得”はなぜ“V不了”に代替可能なのでしょうか、“V不得”の存在価値はどこにあるのでしょうか。次回をご期待ください。

絵で見ることわざ(7)

絵 張 恢
文 『中国語の環』編集室



看菜吃饭，量体裁衣

kàn cài chī fàn, liáng tǐ cái yī

おかずに合わせてごはんを食べ、体に合わせて着物を裁つ；具体的状況に応じて事を行う。対象に合った処置をとる。



靠着大树好乘凉

kào zhe dà shù hǎo chéng liáng

涼をとるには葉が茂った大きな木の下がよい；頼る相手を選ぶならば勢力のある者がよい。寄らば大樹の陰。



腊月冻，来年丰

là yuè dòng, lái nián fēng

臘月(ろうげつ)が寒ければ、翌年は豊作である。“腊月”は旧暦12月の異称。気候が寒ければ地中の害虫が死滅するからである。



靠山吃山，靠水吃水

kào shān chī shān, kào shuǐ chī shuǐ

山に近ければ山で暮らしを立てる、水辺に近ければ水辺で暮らしを立てる；与えられた有利な条件をうまく利用して生活する。後半は“靠海吃海”とも。



口说无凭，眼见为实

kǒu shuō wú píng, yǎn jiàn wéi shí

親しく見たものは確かであるが、口で言うことはあてにならない；軽々しくうわさ話を信じてはならず，自分の目でしっかり確かめるべきである。



老鸹叫，没好兆

lǎo guā jiào, méi hǎo zhào

カラスが鳴けば、よくない出来事がおこる。“老鸹”はカラス，“乌鸦”(wūyā)に同じ。迷信でカラスは凶事をもたらすとされている。



老天不负苦心人

lǎotiān bú fù kǔxīnrén

天は懸命に努力する人に背かない；天は自ら助くるものを助く。“苦心人”は“有心人”，“有志人”とも。



乐极生悲，否极泰来

lè jí shēng bēi, pǐ jí tài lái

楽しみが頂点に達すると悲しみが起こり，不運が極みに達すると幸運が巡ってくる；楽あれば苦あり，苦あれば楽あり。“否”“泰”は易の卦(か)の名。



良药苦口而利于病

liángyào kǔkǒu ér lìyú bìng

よくきく薬はのみにくいが，病気を治すには役立つ；良薬は口に苦し。人からの忠告は受け入れにくいものだが，身のためになる。忠言耳に逆らう。



两虎相斗，必有一伤

liǎng hǔ xiāngdòu, bì yǒu yī shāng

二頭の虎が闘えば，必ずどちらかが傷つく；両雄が闘うときは必ず一方が倒れる。両虎相闘えば勢い俱(とも)に生きず。両雄並び立たず。



留得青山在，不怕没柴烧

liúde qīngshān zài, bù pà méi chái shāo

青々とした山さえ残してあれば，たきぎがなくなる心配はない；大元さえ押さえていれば，将来なんとかなる。命あつての物種。



路遥知马力，日久见人心

lù yáo zhī mǎlì, rì jiǔ jiàn rénxīn

道のりが遠ければ馬の力が知れ，日がたてば人の心がわかる；物事は実際に経験してみないとわからない。馬には乗ってみよ，人には添うてみよ。

漢文学習と中国語学習

加藤 徹 (明治大学)

漢文と中国語。難しいのはどちらか。

「漢文のほうが難しい。言うまでもない」という人もいる。中国人を見ろ。みんな中国語を話せる。2、3歳の子供だって、漢字やピンインを習う前から自然に中国語を覚える。漢文は違う。漢文を苦手とする中国人も多い。生徒は学校の「語文」の授業(日本の「国語」に相当)で「古文」を習うが、期末テストや入試で苦勞する。魯迅が書いた小説『阿Q正伝』の主人公は、自分の名前すら書けないルンペン農民だったが、母語である中国語での日常会話に不自由しなかったし、芝居の難しい歌や台詞も耳学問で暗記していた。阿Qに漢文は無理だ。

「いや、中国語のほうが難しい」という論者もいる。中国語は自然言語だ。日本語や英語、昔のローマ帝国の俗ラテン語と同じく、母語話者が存在する。喃語(幼児期のまだ言葉にはなっていない段階の音声)や幼児語、方言、流行語、スラングもある。生きた言葉ゆえ、日進月歩で変化し続ける。座学で中国語を学ぶ外国人は、中国人の母語話者にくらべ、大きなハンデがある。その点、漢文は古典語だ。整理された人工言語で、喃語も流行語もない。漢文の母語話者も、漢文を使う非識字者も、原理的に存在しない。孔子も諸葛孔明も李白も、漢文は座学で勉強したのである。中国人も外国人も、漢文は学習言語であるという点で平等だ。外国人のハンデは、漢文学習のほうが低い。

どちらも一理ある。私は、漢文と中国語の違いより、類似点に着目したい。

昔、明の時代の文人・沈徳符は、『万曆野獲編』巻30でこんな主旨のことを書いた。中国の使節団が朝鮮国へ赴くと、現地の文人と交流し、たがいに漢詩を作って贈りあう。朝鮮国の漢文レベルは高い。中国最高の秀才たる翰林学士が作った漢詩が、朝鮮文人の漢詩よりへたで、中華の面目が丸つぶれになったことが一度ならずある。今後、朝鮮国への使節の人選は慎重を期すべし、と。

日本の漢文レベルも高かった。鑑真や毛沢東、張学良は中国人だったが、日本人が書いた漢詩を読み、感激した。中江兆民は、ルソーの『社会契約論』をフランス語から漢文に翻訳した。中江の『民約訳解』の漢文は明晰で格調高い。東アジアの知識人の共通語たる漢文に訳した兆民は「東洋のルソー」とたたえられた。

「昔の人は偉かった」と単純に礼賛する気はない。ただ「自分はしょせん外国人だから」と萎縮せず、漢文を習得し堂々と運用した先人の態度には、学ぶべき点がある。

日本人が本格的に英語を学ぶようになったのは、明治時代からだ。岡倉天心は『茶の本』を、新渡戸稲造は『武士道』をそれぞれ英語で書き、欧米人の心をつかんだ。漢文も中国語も英語も、母語と外国語の関係を処理する運用能力を磨くという学習の本質は、今も昔も同じだと思う。

目的別の語彙学習

沈 国威（関西大学）

一つの外国語をものにするには、どれくらい覚えておけばよいかとよく聞かれるが、『HSK詞彙大綱』には、8,822語が甲乙丙丁の4級に分けられ、収録されている。新HSKは、語彙サイズを5,000語に抑えたが、1-6級と級を細分化している。一方、筆者の『中国語学習シソーラス』（東方書店）では、17,000語余りを3,300ほどの同義語群に整理し、それぞれの同義語群に代表語を立てている。何語くらいで足りるかという質問に、何をするかによって決まるという答えが返ってくる場合がよくある。つまりどんな語をどれだけ覚えるかは、学習の目的と密接な関係がある。筆者は、目的別に語彙を大まかに次の3種類に分けることができると思う。

一、日常語彙

その名の通り、日常的な場面で頻繁に使用する語であり、対人コミュニケーションに最小不可欠な語が含まれている。日常語彙がなければ、当該の言語社会では、生活が不可能か著しく困難になる。これは外国の旅行者や留学生などの外国人を考えれば分かる。語彙数は現実生活への関与度にもよるが、数百から二千までと思われる。日常語彙は、安定性がその特徴だと主張する人がいる。つまり先祖代々変わってきて、変化がほとんどないということである。しかし、筆者は日常語彙にも強い時代性があると考えている。農耕社会から産業社会へ、さらに情報社会では、歴史の節目ごとに日常語彙も大きく様変わりする。

二、学習語彙

知識や技能を身につける際、必要な語彙であるがゆえに、この名前が付いた。現代社会で生産活動、特に知的な活動に従事する時に必要な語である。知的語彙が不足すれば、良い仕事に就けないし、大事な仕事を任されない。日常語彙は話し言葉、学習語彙は書き言葉、と考えられがちだが、言文一致の度合いが高まった今日、一概には言えない。二字語が多いというのは一番の特徴かも知れない。学習語彙も、時代と共に変化するが、変化の規模とスピードが日常語彙よりずっと大きく、速い。学習語彙は、中国の政治経済、科学技術を知る上で、欠かせない。必ずしも専門用語ばかりではない。名詞だけではなく、動詞、形容詞も多く含まれる。動詞は2,000語、形容詞は1,000語と習得する必要がある。但し、日本語と同じ形の語が多い。加えて表す意味は人類共通のものがほとんどで、日常語彙より覚えやすい面がある。

三、教養語彙

人は、仕事をし、食べて、寝て、生きるだけではない。自分の人生を豊かなものにするために、或いは余った時間を消費するために、趣味を持ち、小説を読み、詩歌を朗読し、古典を楽しむ。このように余暇を過ごすための語彙を教養語彙と呼ぶ。中国語に関する教養語彙には、四字成語や漢籍に出てくる故事典拠が多い。幸いにも、この部分の語も歴史的な事情で、日中が共通するものがある。

1級を目指して

紅 希美

初めて中検にチャレンジしたのは、高校3年生の時でした。

中検を受験しようとした理由は、大学入試で役に立つ資格を取得したいと考えた時、「英検」や「漢検」などのように多くの人が持っているような検定ではなく、持っている人があまりいない検定を取得したいと思ったからです。

その中で「中検」を選択した理由は、当時、ある有名な観光地近くのお寿司屋さんでアルバイトをしていました。その店は、外国の方が多く来店し、中でも中国からの方が多く、店内には中国語のメニューが置かれているほどでした。時には簡単な中国語を使って接客することもありました。日頃から中国の方と触れ合う機会があったため、とても中国に興味があり、流暢な中国語で会話をしてみたいと思ったからです。

高校3年生の時に中検2級を取得してからは、それで満足してしまっただけで中国語の勉強をしなくなってしまいました。大学に入学後、中国語の授業を選択したことを機に準1級を取得したいと思うようになりました。そこで大学1年生の後期に準1級を受験しました。しかし、リスニング試験であと5点足りず落ちてしまいました。リスニングは得意だと思っていたので、まさかリスニング試験で落とされるとは思わず、とても悔しかったです。

そのため、次の受験に向けてリスニング試験の対策を重視して勉強しました。主な勉強法は、まずCDを聞きながら問題を解き、丸つけをしました。最後にCDで流された中国語を全て書き写し、難しい単語や出題頻度が高い単語をまとめました。これを行うことにより、書き取りの力を身に付けることができました。本番のリスニング試験では、1回目の受験時よりも15点ほど高い点数を取ることができました。

筆記試験は、ひたすら問題を解き、間違えたところを何回も書き直しました。また、学校の中国語の先生の勧めで、自分用の類語辞典を作成しました。そのおかげもあり無事に合格することができました。

今の力ではまだ1級に合格することはできないと思うので、これからは日頃からコツコツと単語を覚え、中国語の本を読んだり、中国に行ったりして中国のことをもっと詳しく知り、いつか1級を取りたいと思います。

『読者の広場』への投稿を募集しています。中国語に関する事、検定試験に関する事など、400字～1,000字程度でお寄せください（Eメール、郵便とも可）。採用された方には、記念品を進呈します。